

多剤耐性結核に対するリネゾリドの使用経験

研究協力者 露口一成 NHO近畿中央胸部疾患センター臨床研究センター感染症研究部長

研究要旨

多剤耐性結核は世界的に問題となっておりその診断、治療はきわめて困難である。多剤耐性結核の治療薬の開発が急務となっているが、リネゾリドは結核に対して有効であることが報告されており、多剤耐性結核に対しての有効性も報告されている。今回当院での多剤耐性結核に対するリネゾリドの使用成績について検討を行った。リネゾリドは多剤耐性結核に対して有効であったが、副作用による脱落の多さが課題であった。

A. 研究目的

多剤耐性結核は通常の結核に比べてきわめて難治性であり速やかに診断して治療を行うことが望まれる。多剤耐性結核の治療薬の開発が急務となっている。リネゾリド(LZD)はMRSA等に用いられる抗菌薬であるが、多剤耐性を含めた結核に有効であることが知られている。今回我々は、当院で多剤耐性結核に対してLZDを使用した例について臨床的検討を行った。

B. 研究方法

2002年より2012年までに当院で治療を行った多剤耐性結核症例で、治療薬としてLZDを投与した患者について臨床的検討を行った。

(倫理面への配慮)

カルテを元にしたretrospectiveな検討であり、倫理的な問題はないものとする。

C. 研究結果

症例は6症例、うち男性4例、女性2例であった。年齢は、20歳代1例、30歳代3例、60歳代2例であった。これらに対してLZDを含む多剤併用療法が行われたが、うち2例は1ヶ月、2例は2ヶ月、1例は6ヶ月で、貧血・血小板低下・神経障害等の副作用により中止を余儀なくされた。1例は36ヶ月の投与が可能であった。6例中4例で手術が行われた。6例中5例は排菌陰性化が得られた。

D. 考察

リネゾリドは少なくとも短期的には多剤耐性結核症例において有効であると考えられ、手術も組み合わせた治療戦略の一つとして考慮する余地があると考えられた。副作用による脱落の多さが課題であった。

E. 結論

リネゾリドは多剤耐性結核の治療において有効な選択肢の一つである。

G. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

1. 露口一成：新規抗結核薬 第88回日本結核病学会総会 教育講演 2013年3月29日、千葉市
2. 露口一成：日常の呼吸器診療に紛れ込む結核を見落とさないために 間質性肺炎に合併した結核 第53回日本呼吸器学会学術講演会シンポジウム 2013年4月20日、東京
3. 露口一成：リスク要因集団における結核-より積極的な潜在性結核感染治療を含めて- 第67回国立病院総合医学会シンポジウム 28 結核発症のリスク要因とその対策 2013年11月9日、金沢

H. 知的財産権の出現・登録状況

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし